

# 【令和 8 年度活動計画】

資料 1－2

※各項目の記号は連携先を示します[官]行政、[学]大学・小中学校、[民]自治会・NPO 法人、[産]民間企業・商店街

事業名	活動名称 (プロジェクト)	目的		活動内容
	菱野団地まちづくり	地域住民・行政・民間・地域の NPO 法人・大学、そして <b>新たに開校する学校</b> が一体となり、地域課題の解決と魅力向上を推進。多世代が共に学び、支え合う持続可能な地域社会の実現を目指す。	継続強化	[官][民] 各行政機関や自治会との対話を密にしつつ、人手不足を前提とした「活動のスリム化」や「他団体との業務共有」による、無理のない組織形態への再編を断行する。
			新規	[学]「みつば小学校」等の学校行事参画や「みらい科」支援を通じ、「地域全体で子どもを育む仕組み」としての見守り体制を確立する。
拠点利用・運用事業	駄菓子屋	<b>●子どもの居場所づくり</b> 子どもたちが安心して過ごし、主体性を育める安全な居場所を維持する。 <b>●地域の魅力向上</b> 駄菓子屋文化を対外的に発信し、独自の魅力向上とブランド化を推進する。	新規	[学] 大学と連携し、IT を活用した効率的な在庫管理システム等、運営の属人化解消と負担軽減をはかる
			継続	健全な収支バランスを確保しながら、子どもたちが日常的に集える「第三の居場所」としての機能を継続する。
	拠点活用	<b>●地域コミュニティの活性化</b> 活動拠点を「地域のリビング」として開放し、住民同士の交流と主体的な活動を促進することで地域コミュニティの活性化を図る。 <b>●拠点運用の効率化・持続性</b> 多様な団体への貸し出しや連携を推進し、稼働率の向上と利用者や活用団体に基づく持続可能な運営体制を確立する。	継続強化	[民][学]「こどもカフェ」や「大学生 Day」を月 2 回継続開催し、学習支援やスマホ教室の提供と共に、「みらい科」と連動した探究学習の場として拠点を開放する。
			継続強化	[民]他団体による定期利用やイベント活用を積極的に誘致し、多様な活動が日常的に行われる「開かれた拠点」としての利活用をさらに推進する。
	イベント (現在申請中の助成金が獲得できない場合は執り行わない)	<b>●にぎわいの創出</b> 中央広場や拠点を活用した多世代交流イベントを開催し、住民同士の親睦と地域コミュニティの深化を図る。 <b>●地域の魅力発信</b> 会の活動と団地の魅力を内外へ戦略的に発信し、菱野団地独自のブランド価値と地域への愛着を向上させる。	新規	[民][学][産]商店街・大学と連携した「ひしの文化祭」を企画し、準備・運営を通じた店主間の関係再構築と、その信頼関係を基盤として、登下校時の声かけや緊急時対応など、子どもたちの安全を日常的に守る「地域の見守りネットワーク」へと発展させる。
			継続	季節ごとの伝統行事やイベントを継続し、子どもから高齢者までが日常的に顔を合わせる賑わいの場を創出する。
広報事業	情報発信	<b>●地域活動の認知度向上と参画促進</b> 活動内容やイベント情報を戦略的に発信し、認知度を高めることで、住民の主体的な参加や協力を促す。 <b>●地域の魅力向上とブランド化:</b> 独自の個性や活気ある姿を発信し、菱野団地のブランド価値を向上させる。	継続強化	[学] 大学と連携し、Facebook や Instagram 等を活用して、地域内外の幅広い層へリアルタイムな情報を届ける。
			継続	会員、自治会に対し、定期的な活動報告を行う。
運営事業	収益事業	活動資金を継続的かつ自主的に確保するため、多角的な財源構成を確立し、外部環境に左右されない安定的な団体運営を実現する。	継続強化	新たな会費制度の本格運用を通じて、活動を支える会員の拡大を図るとともに、安定的な運営基盤を確立する。
			新規	身体的負担の大きい労働集約型事業から、「会費制度の本格運用」や「広告事業・企業スポンサー」など、組織が自走できるレベルの自主財源確保体制へ抜本的に転換する。
協働事業	大学との連携	<b>●地域課題の解決と活性化:</b> 3 大学の専門的な知見を活用した「大学・地域・行政」の協働により、団地の魅力向上と次世代のまちづくりを担う人材育成を推進する。 <b>●地域イノベーションの創出:</b> 学生の柔軟な発想と住民の経験を融合させ、将来像の提案や環境整備を通じて、菱野団地の新たな価値と活力を創出する。	新規	[学][民][官]ちびっこ広場の整備 [学][民][官]団地内の歩道等の状況の調査及び危険箇所 MAP の作成 [学][民][官]商店街の環境美化整備の整備 [学][民][官]学生シェアハウスの住み手による高齢者へのサポート
			継続	[学][民][官]中央広場のベンチ・居場所を継続して設置するなどの環境整備 [学][民][官]小中学生を交えた落書消しワークショップ [学][民][官]活動・イベント等の SNS 等を活用した PR
	他団体との連携	<b>●地域課題の包括的な解決</b> 地域課題に対し、各団体の協働により効果的かつ包括的な解決を目指す。 <b>●地域全体の活性化</b> 人材、施設、情報などを共有・活用し、効率的な事業運営につなげる。	新規	[学][民]原山台連合自治会主催、原山台閉校セレモニーへの協力
			継続強化	[民][学]NPO 法人まごころ、こどもカフェ、もりのね幼稚園、大学、地域力向上委員会マルチ文化会等との連携を「交流」から「実務共有」のフェーズへ移行させる。備品の共同利用や事務作業の相互補助などを具体的に検討し、事務局の負担軽減と組織の持続可能性を高める。

プロジェクト	こどもサポート・育成プロジェクト	<p>●<b>地域で育む「みらい教育」</b> 瀬戸市独自の「みらい教育（みらい科）」と連動し、地域全体を「未来志向の学び舎」と位置づけ、子どもたちが多様な大人との関わりを通じて地域への愛着と誇りを育む、次世代の地域社会の担い手を育成する。</p> <p>●<b>通学路の「見守り拠点」</b> 拠点が新設校の通学路に面する利点を活かし、子どもたちが安全・安心に登下校できる地域基盤を構築する。</p>	継続	拠点（ひしのミナクル等）での居場所運営を継続し、子どもたちが放課後に安心して集い、地域住民と日常的に交流できる「第三の居場所」としての機能を維持する。
			継続強化	[学]学校行事や「光陵フェスティバル」への協力を通じて、子どもたちの活動を地域全体で支え、学校と地域の結びつきを一層強化する。
			新規	拠点が通学路に位置する特性を活かし、登下校中に子どもが困った時にいつでも立ち寄れる「地域の駆け込み所（安心ステーション）」としての機能を強化・周知する。
	多文化共生	多様な文化を持つ住民が、地域の一員として安心して暮らし、互いに尊重し合えるコミュニティの土台を作るため、まずは多言語による情報提供と、子どもを介した緩やかな接点づくりを推進する。	新規	[学]大学と連携し、外国籍住民の安全と利便性を高めるための「多言語・ピクトグラム看板」を拠点や広場に設置し、視覚的な情報保障を実施する。
			新規	[民]原山台地域力向上委員会「マルチ文化交流部会」と連携し、活動情報の共有やイベント時の共同窓口設置を通じて、既存の多文化支援ネットワークとの協力関係を構築する。